

# 3市共同資源化施設について考える

小平市の燃えるごみ、粗大ゴミ、不燃ごみは、東大和市・武蔵村山市のごみと一緒に中島町にある小平・村山・大和衛生組合で共同処理されています。現在、各市で別々に処理されている資源ごみのうちペットボトルと容器包装プラスチックの2品目についても、3市で共同処理をすすめるための資源化施設の建設が検討されています。

## 資源化をすすめるための共同処理施設は必要

小平市の資源ごみは、小川東町のリサイクルセンターに集められ処理されています。小平・生活者ネットワークは、リサイクルより発生抑制と再利用の促進を優先するしくみを構築し、ごみゼロ社会をめざすべきと考え行動しています。しかし、資源化すべきごみが目の前にあり3市で共同処理したほうがコスト

イクルセンターは手狭で、本来資源化できる軟質プラスチックがリサイクルされずに大量に焼却処理されている状況から、現段階では3市資源化施設は必要であると考えます。

## ゴミ問題の解決には市民参加は欠かせない

8月20日、3市の市長が東大和市内に3市共同資源化施設の建設を表明しました。建設をめぐっては、決定までのプロセスが市民からみえにくく、説明も不十分である等の理由で周辺住民からの理解は得られていません。

こうした中、9月議会に、「3市資源化施設等に関し市民参加の検討委員会の設置を求めることについて」請願が出されました。生活者ネットワークは、ごみ問題は市民ひとりひとりが考えるべき課題であり市民自らが決めていくプロセスなしには解決できないとの認識から、想定地も含めて資源化施設計画全体について3市の市民で議論し、合意形成をはかっていくのは当然と考えてい

ます。しかし委員会審査の中で、資源化の方法などごみ処理の根幹に関わる部分まで、立ち戻る内容が含まれることが明らかになり、会派の考えと一致できないことから請願にはやむなく反対しました。

## 市民参加の場の設置を求め、要望書を提出

委員会審査では、市民参加の場を否定する意見は一切なかったことから議会として一致できる方向性を模索できるのではないかとの思いで継続審査を主張しました。しかし、全体の賛同を得られず、納得いくまでの議論ができなかったことは本当に残念です。

請願は不採択になりましたが、住民参加の場をつくり合意を図っていくことは急務であることから会派として早急に3市の市民による場づくりをすすめるよう衛生組合と小平市宛に要望書を提出しました。生活者ネットワークでは資源循環型社会の構築にむけ、ごみ問題に取りくんていきます。

(君本ひろ子)

## 地域包括支援センターへヒヤリング

小平・生活者ネットワーク福祉部会からの報告

皆さんは、地域包括支援センターをご存知でしょうか？ 市内には高齢者にとつての相談窓口となる「地域包括支援センター」が支所を含めて9カ所あります。福祉部会では、介護保険制度に掲げる「地域包括ケアシステム」について、現状や実態を調査するため、地域包括支援センターへの聞き取りを行いました。

猛暑時の訪問でしたが、医療との連携、見守りや配食などの生活支援、家族への支援や成年後見制度のことなどの質問に対し、どのセンターも気持ち良くていねいに応じてくださり地域の状況を説明してくれました。

一人ひとりのニーズに応じた医療や介護、生活支援のしくみを地域でどうつくりか、今後学習会なども行いながら政策提案していきます。

(平野ひろみ)



3市のペットボトルと容器包装プラスチックの2品目を処理するための3市資源化施設は東大和市の桜ヶ丘が想定地となっている(現在、暫定リサイクル施設)



地域包括支援センター「けやきの郷」にてヒヤリング。居宅介護支援事務所、病院関係者の方も参加。